

交配用ミツバチの適正な管理について

令和7年(2025年)11月7日

熊本県農業革新支援センター

交配用ミツバチの供給が安定して行われるためには、園芸農家が養蜂家から供給された巣箱を次年度の増殖に支障がない状態で返却することが重要となります。

そこで、栽培期間における交配用ミツバチの適正な管理のポイントについて、以下のとおり取りまとめました。

特に、イチゴ栽培では、別紙「イチゴ農家のためのミツバチ管理マニュアル」を参考にしてください。

1. 巣箱の設置

- (1) 巣箱は原則ハウス外に設置し、ハウス妻面に出入り口を作成します。
- (2) ミツバチが巣箱内の清掃をしやすくなるように、巣箱出入り口の反対側を3～5cm高くして、巣箱の出入り口側をやや前のめりに傾けます。
- (3) 巣箱サイドの通風口はふさがないようにします。通風口をふさぐと換気ができず巣箱内が高温になりミツバチが減少する原因となります。

2. ハウスの工夫

- (1) ハウスサイドなどのフィルムの重なり部分の隙間をなくし、ミツバチが挟まれ減少するのを防ぎます。
- (2) 巣箱の位置がミツバチにわかりやすいように、青色か黄色のシートを使い、巣箱のそばに目印を設置します。
- (3) ミツバチが天井部分に逃げて減少しないように、ハウス妻面の上部に日覆いを設置します。

3. 農薬散布時の注意

- (1) 農薬散布の前日の日没時にハウス妻面の出入り口をしっかりと閉じます。
- (2) 巣箱の出入り口は閉じず、ミツバチが野外に出られるようにします。
また、ハウスとの間隔を確保し、ミツバチの活動をしやすくします。
- (3) ミツバチのエサ(砂糖など)や水場は、農薬のかからない場所に移します。
- (4) 農薬のミツバチへの影響日数に十分注意します。
 - ・影響日数が0日の場合、最低1日はハウスに入れてはいけません。
 - ・影響日数が1日の場合、最低2～3日はハウス内に入れてはいけません。
- (5) 散布後の換気を徹底し、農薬の影響を軽減します。

4. ミツバチの主な病気

(1) ふそ（腐蛆）病

- ・ ふそ病菌により発症する疾病で、家畜伝染病予防法により法定伝染病に指定されています。
- ・ ハチの幼虫が病原体を含む餌を摂取した時に発症し死亡します。
- ・ まん延防止のため、ふそ（腐蛆）病の発生蜂群は焼却する必要があります。

(2) バロア症（ダニ被害）

- ・ ミツバチの外部に寄生するミツバチヘギイタダニによる疾病で、家畜伝染病予防法により届出伝染病に指定されています。
- ・ ダニはハチの蛹に寄生し、体液を吸うため、寄生された蛹は羽化できません。
- ・ まん延防止のため、成蜂や蜂児の移動禁止、殺ダニ剤による薬剤処理が必要です。

5. ミツバチの管理

- ・ 花粉交配に使用したミツバチを放置しておく、ふそ（腐蛆）病やバロア症（ダニ被害）の感染源となるので、花粉交配の終わったミツバチは適切に返却（リースの場合）または焼却（購入の場合）します。
- ・ 使用中にミツバチの様子がおかしいと感じたときや、不明な点があるときは購入またはリース元の養蜂家や家畜保健衛生所に相談してください。
- ・ ミツバチの伝染病についての知識を持ち、利用時の伝染病のまん延のリスクについて正しく理解し、適切な管理と利用後の焼却や返却を心掛けましょう。